



本郷台中だより

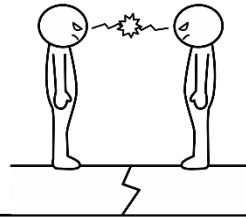
～学ぶ楽しさを知り、夢や希望を育む学校～

令和6年度第9号
令和6年12月2日
文京区立本郷台中学校
校長 江熊 秀昭

敵は存在するか？

校長 江熊 秀昭

「噂では〇〇らしい」
「△△があなたの悪口を言っているらしい」
「□□が私の悪口を言いふらしていると聞いたから、
LINE で□□の悪口を書き込んだ」



子ども同士のトラブルは、上記のような契機で始まることが多いのです。そこにそれぞれの友だち(仲間)が加わり、自分たち(仲間内)が**正しい**と信じて騒ぎが大きくなります。残念ながら、大人の社会でも同じようなことが起きていないでしょうか？

選挙活動で「辞めろ」「ウソつき」「出てこい」や差別発言、聞くに堪えない罵詈雑言を対立候補に浴びせ、その画像を X (旧ツイッター)や YouTube で配信する。それを見た人が面白がったり、立候補者の主張を信じて、対立候補の自宅に押しかけたり、電話をかけたりする。更に支援を求めるメッセージ発信をすると、対立候補を誹謗中傷する投稿が拡散していく。対立候補は「自分に書かれていることはデマばかり。こんなに身の危険を感じたことは初めてだ」と疲労困憊になってしまう。

なぜこのようなことになってしまうのでしょうか？ SNSでは、似た意見の人とばかりつながるうち、考え方が偏る「エコーチェンバー」という現象が起りやすくなります。

東大の経産社会学教授の分析では、それぞれの候補の支持者は支持派の投稿ばかりを転載して、支持者ばかりでつながってしまう「分断」がデータから見て取れるそうです。それぞれの輪の中(仲間内)で過激な言葉が飛び交うエコーチェンバーが発生し、先鋭化していった可能性がある

と説明しています。また、東大の情報社会心理学教授は「確証バイアスが働いたのでは」と指摘しています。確証バイアスは自分の意見や願望に合致する情報ばかりを集める心理傾向のことで、『自分たちは正しい』と強く信じ、過激な行動を起こした可能性がある。冷静な議論を呼びかけても『敵』とみなされて受け入れられない』と説明しています。



主義主張の違う人、性格の合わない人は必ずいるでしょう。しかし、その人は敵でしょうか？自分たちだけが正義で、敵は排除しようとする社会は住みやすいでしょうか？

みんな、一緒に暮らす人たちです。「みんながしあわせを感じられる学校」にするために多少時間がかかっても意見交換の上、合意形成を図っています。それが、文京区や世の中の「しあわせ」につながると考えています。

年末年始、SNSに触れる時間も多くなるかと思います。SNSの利用方法や人との接し方など、ご家庭で少しでも話題にしてください。

生徒の活躍

都中学校支部対抗陸上競技選手権大会

女子1・2年走り幅跳び 第1位 2年

税についての作文

東京小売酒販組合本富士支部長賞 3年

東京都明るい選挙ポスターコンクール

文京区優秀賞並びに東京都入選 2年

環境保全ポスター図案コンクール(2年出品)

銅賞 2名

佳作 4名

12月行事予定 ※1月8日(木) 始業式

2日	月	全校朝礼・安全指導・三者面談始	
3日	火	本富士警察署と生活委員の啓発活動 本郷三丁目交差点 13:30	
5日	木	学校運営連絡協議会 避難所開設会議	
6日	金	三者面談終	
7日	土	生徒会サミット(区民センター10:00~)	
9日	月	学年朝礼	
10日	火	脊柱側弯症検診	
11日	水	専門委員会	
13日	金	いのちと心の授業	
16日	月	生徒会朝礼・3年入試相談始め	
18日	水	校内研修会	
24日	火	大掃除	
25日	水	終業式・学年集会・学習相談	
26日	木	冬季休業日始	
27日	金	学校閉庁日(～1月3日)	